

県立図書館だより

平成28年6月

青森県立図書館報 第25号

電気自動車で 県内の図書館を訪問します



◀ 貸与式の様子

(左)青森県立図書館 佐藤館長

(右)日産プリンス青森販売株式
会社港町店 長野店長



日産自動車株式会社が実施している「電気自動車活用事例創発事業」により、平成28年3月10日、100%電気自動車『e-NV200』が3年間無償貸与されました。当館では、県内の市町村立図書館等や学校図書館への図書セットの搬送をはじめ、巡回訪問等にこの電気自動車を活用することにより、更なる県民サービスの充実を図ってまいります。

目 次

電気自動車で県内の図書館を訪問します	1
大学等図書館連携 最新情報	2
こんなレファレンスがありました	3～4
こどものひろば	5～6
ご存じですか？この資料	7
ようこそ文学館へ！	8
カウンターからひとこと	9
北日本図書館連盟研究協議会開催・イベントのお知らせ	10

大学等図書館連携 最新情報

県立図書館では、県内の大学等図書館と横断検索や相互貸借等の連携・協力を進めており、現在は、以下の13の大学等図書館との間で連携・協力を行っています。

大学等名	弘前大学	弘前学院大学
	県立保健大学	弘前医療福祉大学
	青森公立大学	八戸工業大学
	北里大学獣医学部	八戸学院大学・八戸学院短期大学
	青森大学	青森明の星短期大学
	青森中央学院大学・中央短期大学	八戸工業高等専門学校
	東北女子大学	

平成28年1月28日から、新たに弘前医療福祉大学・短期大学部総合図書館のOPAC（オンライン利用者用目録）が当館ホームページの横断検索に加わりました。

このことにより、より多くの資料を対象とした横断検索が可能になりましたので、積極적으로ご利用ください。

上記13の大学等図書館のうち、横断検索システムで検索できる館は、以下の10館です。（平成28年5月31日現在）

弘前大学	弘前学院大学
県立保健大学	弘前医療福祉大学
青森公立大学	八戸工業大学
北里大学獣医学部	八戸学院大学・八戸学院短期大学
青森中央学院大学・中央短期大学	八戸工業高等専門学校

青森県立図書館 Aomori Prefectural Library

開館時間
一般閲覧室 9:00～19:00
児童閲覧室 9:00～17:00

16年04月

日 月 火 水 木 金 土

3 4 5 6 7 8 9
10 11 12 13 14 15 16
17 18 19 20 21 22 23
24 25 26 27 28 29 30

休館日

図書検索
オンライン貸出

県内公共・大学図書館横断検索

新着図書
内容紹介・予約申込

青森県立図書館
デジタルアーカイブ

青森県近代文学館 入口
The Museum of Modern Aomori Literature Enter Here

サイト内検索 Google

01916417

トップ 更新履歴 イベント 図書館 ネットワーク 市町村 図書館

重要なお知らせ
【特別蔵書点検のお知らせ】
青森県立図書館は、平成28年5月30日（月）から6月2日（木）までの期間、特
書点検のため、青森県近代文学館も含めて休館します。
期間中は、オンライン貸出サービスやレファレンス業務も休止します。
この期間の近隣の市町村図書館も閉館する場合がありますので、ご注意ください。

検索対象の図書館 ★ 全選択 全解除

県立図書館 全選択 全解除

青森県内市町村図書館・公民館 全選択 全解除

☐ 青森市民図書館 ☐ 弘前市立弘前・岩木図書館 ☐ 八戸市立図書館
☐ 五所川原市立図書館 ☐ 十和田市民図書館 ☐ 三沢市立図書館
☐ むつ市立図書館 ☐ 平川市平賀・尾上図書館 ☐ 板柳町民図書館
☐ 中泊町図書館 ☐ 七戸中央図書館 ☐ 六ヶ所村民図書館
☐ 三戸町立図書館 ☐ 五戸町図書館 ☐ スポカルイン黒石

青森県内大学等図書館 全選択 全解除

☐ 弘前大学附属図書館 ☐ 青森県立保健大学附属図書館 ☐ 青森公立大学図書館
☐ 青森中央学院大学・青森中央短期大学 ☐ 弘前学院大学附属図書館 ☐ 弘前医療福祉大学・短期大学部
総合図書館
☐ 八戸学院大学・八戸学院短期大学図書館 ☐ 八戸工業大学図書館 ☐ 北里大学獣医学部図書館
☐ 八戸工業高等専門学校図書館

その他 全選択 全解除

☐ 青森県男女共同参画センター
(アビオあおもり)

検索 条件クリア

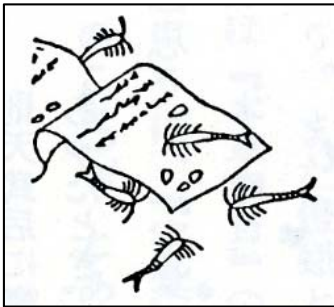
～ こんなレファレンスがありました ～
【第22回】

故郷（ふるさと）の話題読み語り（番外編）
「合点がゆかぬ！不審なり！」



県立図書館では例年、5月末から6月にかけての数日、蔵書点検のために休館とさせていただきます。愛書家であろう利用者の方から「曝書だね。」と、声を掛けられることもあります。

近年では聞くことの少なくなった「曝書（ばくしょ）」。「広辞苑」を引くと「蔵書を陰干しにして風を通し、虫に食われたり黴（かび）たりするのを防ぐこと。書物の虫干し。」と書かれています。



『和漢三才図絵 7』
ワイド版岩波文庫 より
「紙魚（同書では衣魚）」

書物を食う虫という、「紙魚（しみ）」と覚えている方も多いと思います。和書の判読を困難にさせるほど縦横無尽に開けられた穴。その犯人、実は別の虫。紙魚の仕業と云われるのは冤罪なのです。

真犯人は「死番虫；シバンムシ」です。

（参考 『日本大百科全書 第二版 第6巻』 p 963、1023-24）

なお、蔵書点検期間は、新しく購入した和書や寄贈された資料の殺虫作業もしますが、主に、所蔵されている資料＝蔵書が、所定の書架に有るかどうかを、一冊一冊確認していく点検作業を行っています。

今回のご質問は、「曝書（書籍の虫干し）」が、一般に行われていたところのお話です。

【質 問】

先日、図書館で古い資料を閲覧したときに、赤い紙が、ところどころに貼られていました。どなたかから寄贈された資料のようですが、あの赤い紙は何でしょうか？

「曝書」は俳句の季語にもなっていて、その季節は「夏」です。
正岡子規の句に曝書を詠んだものがあります。

「書を干すや昔わが張りし不審紙」

「書を干すや昔なつかしの不審紙」（『子規句集』ワイド版岩波文庫 2015 p 227）

「赤い紙」は、この「不審紙（ふしんがみ）」というものです。
では、どんな物で、どのように使ったのでしょうか。

寺田寅彦の短文集『柿の種』（ワイド版岩波文庫 227 2003 p 245～）に収められている「不審紙」に、とても分かり易く書かれていますので紹介します。

～ 子供の時分に漢籍など読むとき、よく意味のわからない箇所にしるしをつけておくために「不審紙」というものを貼り付けて、あとで先生に聞いたり字引きで調べたりするときの栞（しおり）とした。短冊形に切った朱唐紙（とうし）の小片の一端から前歯で約数平方ミリメートルぐらいの面積の細片を噛み切り、それを舌の先端に載つけたのを、右の拇指の爪（つめ）の上端に近い部分に移し取っておいて、今度はその爪を書物のページの上に押し付け、ちょうど蚤（のみ）をつぶすような工合にこの微細な朱唐紙の切片を紙に貼り付ける。この小切片がすなわち不審紙である。 ～

舌の先端に載せたのは、塗られている糊を濡らし、本に貼り付けるため、言わば、書き込みをしない、現在でいう付箋紙だったわけです。

寺田は、中学時代には、もう使わなくなると書いています。この使われなくなった時期については、作家・評論家であった木村毅が、随筆集『南京豆の袋』（第一出版社 1939）のなかの「栞・不審紙・書入」で、「私達の小学校に入った時はもうすたれてみた。」と書いています。寺田は明治 11 年、木村は明治 27 年生まれですから、明治という時代とと

もに不審紙は消えていったことになります。

ところが、消え去ったはずの不審紙が、昭和 54(1979)年の話として現代に甦ります。井上ひさしさんの随筆「不審紙と付箋紙」です。この随筆は『週刊文春』に連載されたものの一つで、『本の枕草子』として昭和 57 年に文芸春秋社から単行出版されています。井上さんは、その形状と、仮名草子の一節を引用して使い方を説明しています。

～ 先端が紅色に染めてあり、反対側には糊がついている。仮名草子の『昨日は今日の物語』に、《是は不審紙とて合点のゆかぬ所に付て、後に師匠に問ふためにつける》とありますが、～

井上さんは、執筆のためと思いますが、カンヅメで某社の会議室に入ります。その時に不審紙を束で 5, 6 個拾い、根が卑しいので猫糞して持ち帰り、使ったと書いています。

さて、この引用された仮名草子の『昨日は今日の物語』、『日本国語大辞典 第二版 第十一巻』(小学館 2001)の「不審紙」の項でも紹介されています。

ご紹介したいところなのですが、この仮名草子、笑話集と紹介されていることもありますが、艶ばなし集です。東洋文庫 102『昨日は今日の物語 近世笑話の祖』(武藤貞夫訳 平凡社 昭和 42)として発行されています。また、『日本の書物』(紀田順一郎著 新潮社 昭和 51)でも、「野放図な哄笑『昨日は今日の物語』」と題して表題の意味・成立などの解説と「不審紙」の話も所収されていますので、是非、ご自身でお読みになり、「ニヤリ」「クスッ!」としてください。

最後に、「不審紙」という言葉をととても素敵に使っている作品を紹介します。

まずは、右の写真をご覧ください。当館所蔵資料に実際に貼られていた「不審紙」です。

では、泉鏡花の「式部小路」の一節をお読みください。

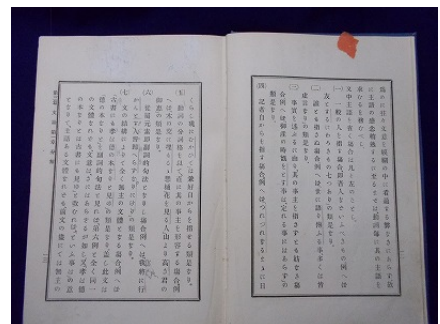
(※ お夏という女性が、子供たちに石を投げつけられた出来事のあと)

～ お夏は袖をくるりと白く、

「こんなよ、愛吉。」

いはれた其の二の腕の不審紙。色の褪せたのに歯を噛んで、裾に火の粉も知らずに寝た、愛吉が、然(さ)も痛さうに、身ぶるひした。～

(『泉鏡花全集 巻六』岩波書店 昭和 16 年)



右上の朱色の紙片が不審紙です。

いかがですか。「二の腕の不審紙」とは、何とも心惹かれる表現ではありませんか。

他にも、樋口一葉の「暁月夜(あかつきづくよ)」には「～万葉集に不審紙をしたる手を、～」といった行(くだり)があります。また、民俗学者・柳田國男に師事した、民俗・地理学者の千葉徳爾(ちばーとくじ)は、「柳田國男の初期民俗学研究法」(『日本民俗学』215号 1998年8月)という論文の中で、柳田から不審紙の貼り方など、直接指導を受けたことを書いています。千葉のこの話は、『独学の冒険』(礪川全次著 批評社 2015)にも所収されています。礪川は、在野史家として著名な方で、多くの独学者を採り上げた同書は、在野研究の在り様を知るうえで、とても参考になる資料です。巻末の「独学者にすすめる百冊の本」では、笹澤魯羊も紹介されています。是非、ご覧ください。

たった一つの言葉や事柄から、多くの作品、作者、知らなかった世界に出会うことができるのが図書館の魅力です。

自分で調べ、見つけた時の喜びは、また格別なもの。独学の魅力です。県立図書館は、皆さんの知りたい!を応援します。

● レファレンス申込み及び問い合わせ先

青森県立図書館 参考・郷土室 電話 017-729-4311 FAX 017-762-1757

電子メール sanko@plib.pref.aomori.lg.jp

《追悼 鈴木喜代春先生》

こどものひろば



喜代春先生、ありがとう

青森県出身の教育者、児童文学作家として知られる鈴木喜代春^{すずききよはる}さんが、5月13日に、ご逝去されました。90歳でした。

鈴木喜代春さんからのメッセージ ～ 本をよんでキラキラ 本はもう一人のわたし ～

児童閲覧室のおはなしコーナー近くに、喜代春先生の色紙が掛けられています。

教師として 38 年間、青森県と千葉県の小・中学校に勤務し、「よい教師」になるぞと心に決め、そのために、ひたすらに「本」を読み「本」と出会ったと言います。



ご自身も、子ども達のためにと児童文学作品の創作を始め、その活動は退職後も続けられました。色紙に記された言葉は、子ども達への、そして子ども達を支えていく大人へのメッセージ、「本をよんでキラキラ」という詩になっています。

「本をよんでキラキラ」の詩の一節をご紹介します。

「人間は だれでも みんな みんな もっと つよくなり
やさしくなり かしこくなって キラキラ輝いた 自分になり
たいのです。

本には そのような もっと つよく やさしく かしこい
もう一人のわたしが いるのです。」（部分抜粋）

『子どもとともに一私の教育実践史』（鈴木喜代春著 教育新聞社 2009）より

写真の色紙は、先生のメッセージを子ども達に伝えたい、どうか色紙に書いて送ってほしいという願いに応え、送ってくださったものです。

額に入れ、児童室に掛けた様子、額を見た利用者の方々からの「とっても良い言葉ですね。」に、職員も嬉しかったことをお伝えしました。

喜代春先生からの返信には、

「喜んでくださって、うれしいです。生きていることが ありがたいね。」と書かれていました。

喜代春先生の手紙には、必ず「ありがとう」という感謝のことばが添えられていました。

『子どもとともに一私の教育実践史』には、たくさんの先生や友達、本との「出会い」があった。その出会いがあったからこそ、今の自分がある。ということを繰り返し書かれ、感謝の気持ちを綴っています。

2015年5月、喜代春先生は青森県立図書館を訪れ、児童閲覧室に掛けてある色紙、参考郷土室の喜代春先生の本を紹介した展示コーナーを見ていただきました。

突然のことでした。

驚く私たちに向かって、笑顔でうなずきながら、何度も何度も「ありがとう」「うれしいね」とおっしゃってくださいました。



2015年5月4日

参考郷土室 展示コーナーをみる鈴木喜代春さん

その言葉に、感謝の気持ちを伝えたことを覚えています。

この春、近代文学館で開催された「鈴木喜代春展」に、是非、訪れたいと仰っていた先生。残念ながら体調を崩され、来ていただくことは叶いませんでした。

子ども達への温かな眼差しに、わたし達から、もっと、もっと、もっと、たくさんの「ありがとう」をお伝えしたかった。

喜代春先生、わたし達の「ありがとう」は、とどいていますか。
子ども達の、たくさんの「ありがとう」が、とどいていますか。

喜代春先生の愛した子ども達が、先生の物語の力に励まされたように、私達も、子ども達が「本はもう一人のわたし」と思ってくれるよう。子ども達がいつまでも「本をよんでキラキラ」できるよう、自分達が出来ることを直向きに惜しみなく、力を注いでいこうと思います。

(児童サービス担当)



「オラが村の鎮守サマ コウモリに占拠された！」

今からちょうど40年前、1976年6月7日付の『東奥日報』にこんな見出しの記事が掲載されました。

天間林村（現在の七戸町）天間館神社拝殿の屋根裏にコウモリの大群が住み着き、その駆除に氏子たちが手を焼いているというのです。

ところがその後、弘前大学理学部の調査により、その大群が希少種ヒナコウモリのコロニーであることが判明。

害虫を捕食する益獣でもあるヒナコウモリとの共生を目指して研究者と地域住民が力を合わせ、ついに1978年、ヒナコウモリを神社から蝙蝠小舎へと集団移住させることに成功したのです。

世界初とも言われるこのコウモリ人工転居作戦の中心的な役割を担ったのが、当時青森県立三戸高等学校の自然科学部顧問を務めていた教諭・向山満氏でした。

1942年新潟県佐渡島に生まれた向山氏は、長年に渡って青森県の動植物の調査研究と保護活動に取り組み、1996年の青森自然誌研究会の立ち上げや2005年の三沢市仏沼のラムサール条約湿地登録に尽力するなど、数々の功績を残しました。

中でもコウモリ類の調査研究と保護活動については日本の第一人者として知られ、皇居内やアンコールワットでのコウモリ調査など国内外で活躍。その様子は、児童書『コウモリたちのひっこし大計画』（谷本雄治著 ポプラ社 2003）に分かりやすくまとめられています。

2012年秋田県森吉山でのコウモリ調査活動中に不慮の事故により亡くなった向山氏は、生前こう書き記していました。

「青森県の自然は多様で貴重で、しかも大きく変ぼうしつつあります。地域の自然誌解明（記録）には中央の学者でなく、私たち一般市民の目が大切です。常に関心を持ち、見つめ続け、記録し続けてほしいと考えます」（「向山満さんの生き物「探検」特別編」『東奥日報』2008年3月29日）。

6月は環境月間です。向山満氏の遺した言葉を胸に、身近な自然を改めて見つめ直してみませんか。

なお、向山氏の遺した貴重な資料をもとに、その業績を振り返る企画展「向山満コレクション コウモリの不思議」が、2016年7月3日（日）まで青森県立郷土館にて開催されています。



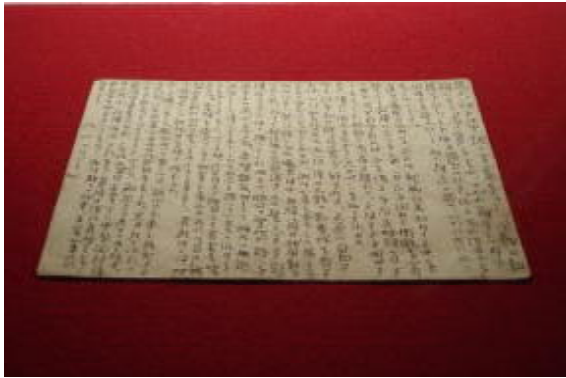
青森県立図書館では、青森県に関する資料や青森県内で刊行された資料、青森県在住者・出身者の著作物等を郷土資料として積極的に収集し、永く保存するとともに、県内外の皆様幅広くご利用いただいております。

ようこそ文学館へ！

近代文学館資料の紹介(第24回)

特別展「青函を旅した文人たち」(7月9日(土)～9月22日(木・祝))で展示する近代文学館所蔵資料の中から選りすぐりの1点を紹介します。

石川啄木「小笠原迷宮宛書簡」(明治39年5月11日付)



石川啄木「小笠原迷宮宛書簡」
明治39年5月11日付

石川啄木は、明治19年岩手県に生まれました。若くして亡くなったこの天才歌人と青森県との縁をご存じでしょうか。

啄木の伯父が、青森県野辺地町の常光寺住職だったこと、また啄木の父も3年ほどこの常光寺に滞在していたことから、啄木は野辺地町を数回訪れています。

さて、啄木が最初に野辺地町を訪れたのは、明治37年9月、処女詩集出版費用を用立ててもらうため、北海道にいる義兄のもとに行く途中だったといえます。翌38年5月には、念願の処女詩集『あこがれ』が刊行されました。これにより啄木は、若き天才詩人として名声を高めることとなります。

しかし、同じころ、故郷渋民村宝徳寺の住職をしていた父が免職となり、経済的基盤を失うことになりました。一家は住み慣れた渋民村を出て盛岡で暮らし始めますが、その暮らしは困窮を窮めたようです。39年3月、啄木は、母と妻を伴って渋民村に戻り、母校である渋民尋常小学校で代用教員となります。月給は8円。米10kgが1.5円ほど(参考：週刊朝日編『値段の明治大正昭和風俗史 上』より)の時代でした。

近代文学館所蔵の「小笠原迷宮宛書簡」は、この代用教員だった時期に書かれたもので、1枚の葉書を出すお金にも困っていた啄木が、限られたスペースを惜しんで小さな文字を連ねている書簡です。注目すべきは、「小生は蓋し日本一の代用教員ならむ」(自分はおそらく日本一の代用教員であろう)というフレーズ。貧困にあえぎながらもプライドを失うことなく、郷里の子弟を教育する志に燃えていた啄木の姿が浮かび上がってきます。

しかし、翌年5月、どうにも生活が成り立たなくなったことから、北海道に新生活を切り開くべく、啄木は渋民村を出て函館の地に渡ることになりました。

カウンターからひとこと (第24回)



今回は“遠隔地返却サービス”を紹介します。

「遠隔地返却サービス」ってどんなサービスなの？

「遠隔地返却サービス」は、県立図書館で借りた本を御協力いただいている県内の市町村立図書館等（以下、「協力館」）で返却できるサービスです。

「県立図書館でじっくり本を選んで借りたいんだけど、青森市以外に住んでいて返しに行くのは大変…」という方などにお勧めです。

利用するためには

本を借りる際に職員へ「遠隔地返却サービスを利用する」旨をお伝えください。

専用の袋に入れてお渡ししますので、返却期限日までに協力館に返却してください。

なお、協力館は県内全ての市町村にありますので、お気軽に御利用ください。



【遠隔地返却サービス専用貸出袋】

H27 年度遠隔地返却サービス協力館別冊数ベスト 10

1 位	弘前市立弘前図書館	1,417 冊	5 位	平内町立図書館	202 冊
2 位	五所川原市立図書館	1,193 冊	7 位	むつ市立図書館	200 冊
3 位	スポカルイン黒石	633 冊	8 位	八戸市立図書館	188 冊
4 位	青森市浪岡中央公民館	407 冊	9 位	板柳町民図書館	186 冊
5 位	十和田市民図書館	202 冊	10 位	藤崎町図書館	178 冊

青森市内で返却できる所はあるの？

青森市内で「遠隔地返却サービス」を御利用できる協力館は「青森市浪岡中央公民館」のみとなっています。

また、県立図書館のカウンター及び玄関脇ブックポストの他、青森県庁北棟西側のブックポストに返却できますので御利用ください。

この他に、県立図書館の本を協力館で受取・返却できる「オンライン貸出サービス」等さまざまなサービスがあります。

詳しくは、県立図書館までお問い合わせください。

平成 28 年度北日本図書館連盟研究協議会 開催

下記の日程で、本県で開催されます。図書館関係者だけではなく、図書館利用者の方もぜひ御参加ください。詳細は後日ホームページ等で御案内いたします。

- ・期日：平成 28 年 9 月 29 日（木）～30 日（金）
- ・場所：青森市文化観光交流施設「ねぶたの家 ワ・ラッセ」2 階イベントホール
- ・大会テーマ：「図書館 変わらないもの、変えるべきもの」
- ・基調講演講師：内野 安彦 氏（元塩尻市立図書館長）
- ・日程：1 日目 13:30～16:30 開会式、基調講演、事例発表
2 日目 9:00～12:00 パネルディスカッション、情勢報告、閉会式

青森県近代文学館 平成 28 年 6 月から 9 月までのイベントのお知らせ

●エクステンド常設展示「石坂洋次郎と太宰治」

会期：6 月 3 日（金）～11 月 23 日（水・祝）9:00～17:00

会場：青森県近代文学館常設展示室

●特別展「青函を旅した文人たち」

会期：7 月 9 日（土）～9 月 22 日（木・祝）9:00～18:00

会場：青森県近代文学館企画展示室

文学講座（7/24, 8/21）や日曜講座（9/11）も予定しています。

●日曜午後の朗読会—おとなのためのものがたり—

日時：6 月 5 日（日）、7 月 10 日（日）、7 月 31 日（日）、8 月 7 日（日）、
8 月 28 日（日）、9 月 18 日（日）13:30～14:00

会場：青森県近代文学館企画展示室前ロビー

青森県立図書館 平成 28 年 6 月から 9 月までのイベントのお知らせ

●おはなし会 絵本の読み聞かせやブックトークなど

日時：6 月 11 日（土）、7 月 9 日（土）、8 月 13 日（土）、9 月 10 日（土）
14:00～14:30

●おしえて先生！知るしるする探検隊

科学の実験やいろいろなお仕事のはなし、スポーツの体験、本の展示など

時間：14:00～14:30

テ ー マ	6 月 25 日（土）	かけっこの達人～速く走るコツ～
	7 月 23 日（土）	てがみがとどくまで
	8 月 27 日（土）	隊長が考え中です
	9 月 24 日（土）	刀と竹刀、振ってみませんか～剣道ってどんなもん？～

いずれも会場は児童閲覧室です。